



2018年8月
 深圳日本人学校
 清水 佑季子

大家好！！みなさん、こんにちは。2017年度から深圳日本人学校に派遣された、倉吉市立西郷小学校所属の清水佑季子（しみずゆきこ）と申します。

現地での生活、教育活動を通して、中国の魅力と在外教育施設の様子を少しでも皆様にお伝えできればと思います、このような通信を作成しました。どうぞよろしくお願いいたします。

しんせん 深圳について

さて、突然ですが、みなさん深圳をご存じでしょうか・・・？「ああ、中国のあの街か！！」とすぐに出てきたあなたは中国通です！！「香港の隣」と言えば、なんとなく場所のイメージを持っていただける方も多いかもしれません。

まずは、ここ深圳という街について少し紹介します。



米子空港から香港まで飛行機で約4時間。そこからフェリーやバスで約1時間。香港と中国本土をつなぐ玄関口が深圳です。

深圳市は、中国の南、広東省に位置し、南は香港に隣接しています。広東省の面積は日本の約半分、それが21の市区に分かれているので、市といっても日本の都道府県に近い規模です。気候は亜熱帯海洋性気候で、夏は高温多湿・冬は温暖小雨となります。

1980年、中国国内で4か所の「経済特別区」のひとつとして指定され、発展のめざましい新しい大都市として知られるようになりました。1980年には約30万人だった人口も、2017年には約1200万人（鳥取県の20倍以上！！）と、急激な増加が見られます。現在も街のあちこちで高層ビルや大型商業ビルが次々と建設され、日々進化を遂げています。通信・電子機器産業がさかんで、世界トップクラスの携帯メーカーやIT企業も深圳に本社を置くなど、今や世界でも注目される都市となりました。日系企業も多く進出しており、在留邦人は約5500人(2016年)にものぼるそうです。



中心部には超高層ビルが立ち並び、高さ600mを超えるビルがシンボルです。

言語は 北京語を標準とした“普通話”が主に使われています。元々は広東語圏ですが、新しい街で移住者がほとんどなので、基本的には普通話が使われているのも、深圳の大きな特徴の一つです。

深圳日本人学校について

深圳日本人学校は世界89校の日本人学校のうち、88番目にできた新しい学校です。2008年4月にホテルの一部フロアを校舎とし、児童生徒数36名で開校しました。その後、児童生徒数の増加に伴い、2012年に現在の新校舎に移転しました。2017年度には10周年という節目を迎え、小学部・中学部合わせて約270名の子どもたちが元気に通っています。



職員は派遣教員・現地採用教員の他に、事務職員、中国語講師、ドライバー、保安員、用務員、技師など、多くの現地の職員の方にも支えられています。



もともとあったビルを改装して学校として使っているため、校舎は8階建てです。

人工芝のグラウンドと屋根付きバスケットコートで、体育をしたい休憩を過ごしたいしています。

本校には、広いグラウンドや体育館、プールなどはありません。運動会や水泳の授業は、深圳湾体育中心という公共の運動施設を借りて行います。



小学部の子どもたちは、毎日、スクールバスが送迎で通学します。職員全員でお見送りをするのが深圳流です。



終わりに

ここ中国は英語がほとんど通じません。はじめは、全く言葉の通じない環境でどう生活していこうかと戸惑う日々でした。しかし、片言の中国語とジェスチャーと笑顔で精一杯伝えれば、現地の方も温かく接してくれます。できなくても伝えようとする気持ち、聴き取ろうとする姿勢、まさに言語を越えたコミュニケーションの大切さと楽しさを実感しています。

今回は深圳という街と学校について簡単な概要を書きましたが、まだまだたくさんの魅力があります。今後もお伝えできればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。